6. 米に関する Q&A

QA87 米の安全性は、どうなっていますか

平成 26 年産米については、平成 25 年産米の検査結果や避難指示区域の見直し等を踏まえ、

- ①避難指示により、立入りが制限されている帰還困難区域では、作付制限
- ②避難指示により、営農が制限されている居住制限区域では、除染後の農地の保全管理や市町村の管理の下での試験栽培
- ③営農の再開が可能な避難指示解除準備区域では、営農再開に向けた実証栽培等
- ④その他の地域については、平成 25 年産米の検査結果等に基づいて、地域毎に検査密度（全量生産出荷管理又は全戸検査等の抽出検査）を設定して検査を行っています。

※：平成 25 年産も同様に、平成 24 年産米の検査結果や避難指示区域を踏まえた、作付制限、放射性セシウムの吸収抑制対策と、収穫後の検査を組み合わせることで米の食品としての安全確保を図りました。さらに、福島県では、県下全域で全袋検査を実施しました。

また、調査の結果、土壌中のカリウム濃度が低い水田では、玄米中の放射性セシウム濃度が高い傾向にあること、土壌中のカリウムは、セシウムと化学的に似た性質を有しており、作物のセシウム吸収を抑える働きがあることがわかったため、必要な地域では適切な量のカリウム肥料を施肥して、稲が放射性セシウムを吸収するのを抑制しています。

このような取組の結果、平成 25 年度の基準値の超過割合は、平成 24 年産米から更に減少しました。なお、基準値を超過した米は出荷されず、市場には流通していません。

■米における放射性物質の検査結果

		検査点数	基準値 超過点数※	超過割合
米	～平成 23 年産	26,464	592	2.2%
	平成 24 年産	約 1,037 万	84	0.0008%
	平成 25 年産	約 1,104 万	28	0.0003%
	～平成 26 年産(9 月 29 日)	767,467	0	0%

※：平成 24 年 4 月から設定された基準値 100 ベクレル/kg を超過した点数。

- ・検査結果の集計対象は、「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」
（平成 26 年 3 月 20 日原子力災害対策本部決定）の対象自治体の 17 都県
- ・平成 26 年 9 月 29 日現在。

出典：消費者庁「食品と放射能 Q&A」（第 9 版）より作成

出典の公開日：2014 年 11 月 13 日

本資料への収録日：2014 年 3 月 31 日（第 8 版による）

改訂日：2015 年 3 月 31 日